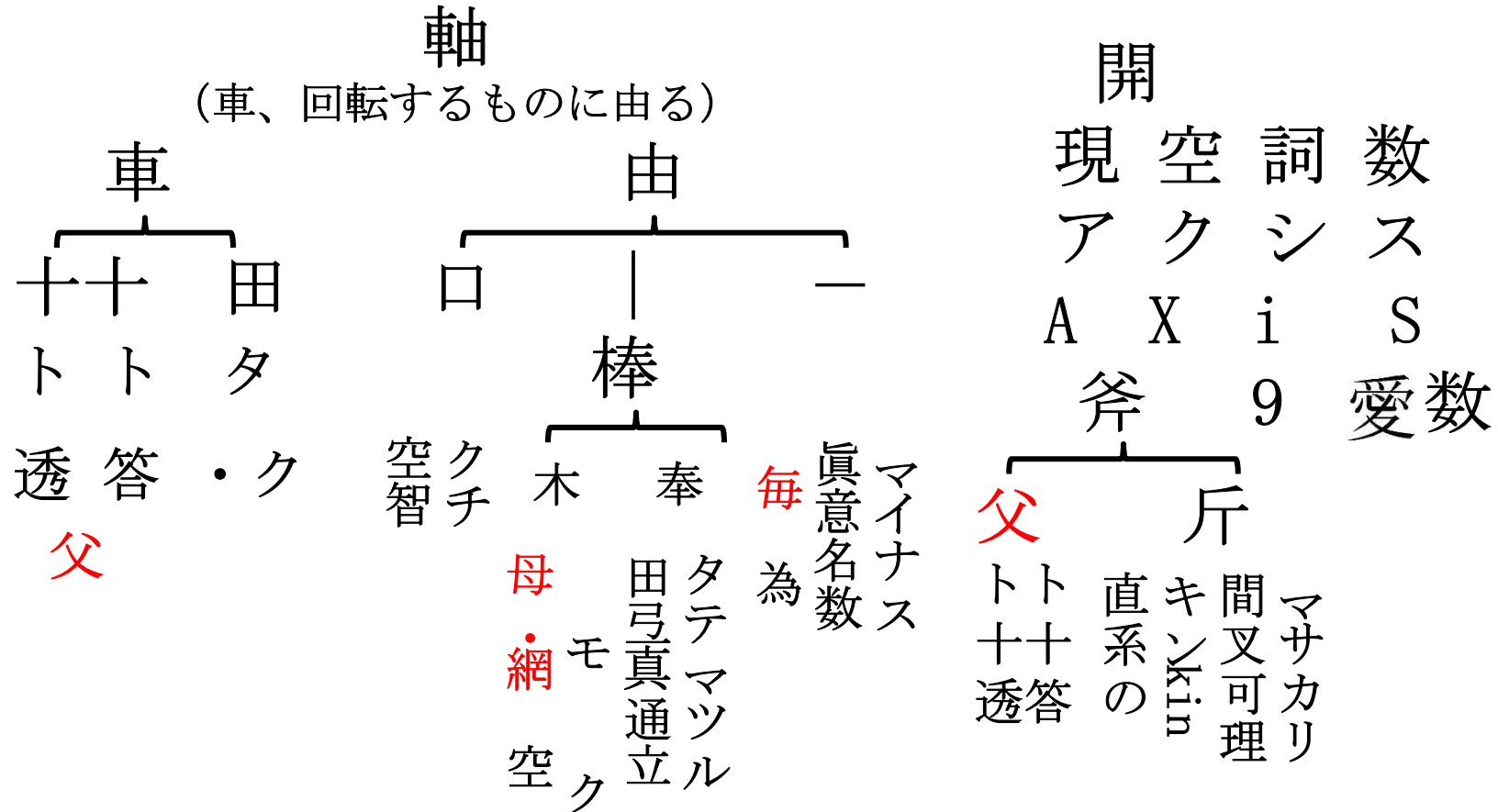


軸の字分け

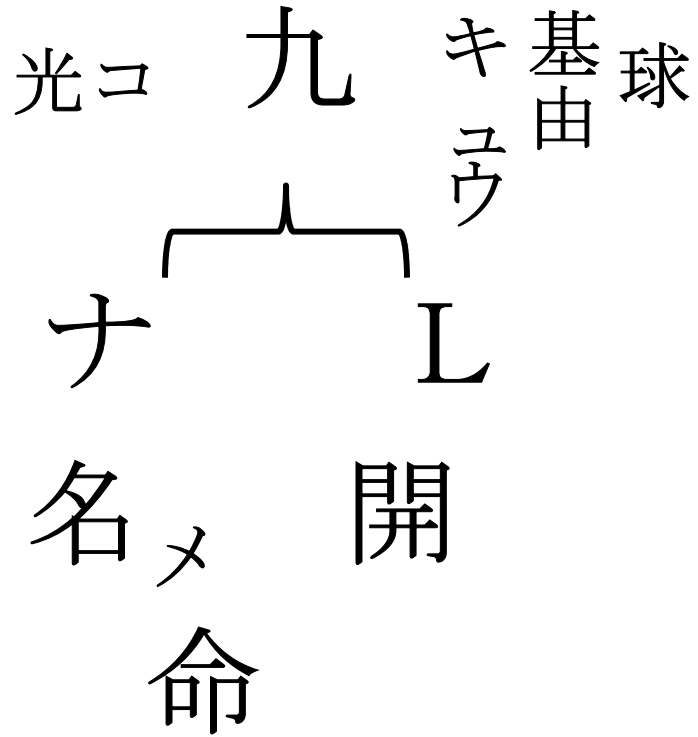
円と田の関係と字分けを見てきました。次は軸、すなわち回転する為の必須条件である軸というものを検証して見ましょう。

宇宙にあるすべての物は回転するエネルギーの小さな小さな粒子、「光子」と呼ばれたり「超ひも」と呼ばれたり他にもまだありますがともかく極小の何かが猛スピードで回転することで成立しています。

軸・Axis

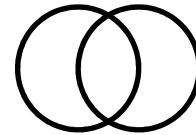


9 九 ク



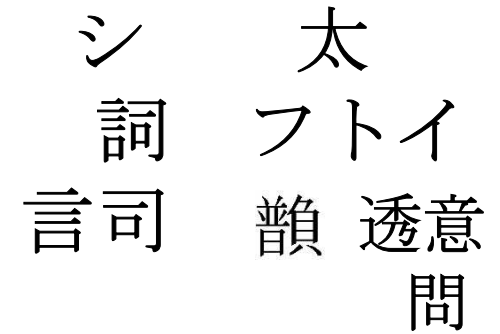
ク

田

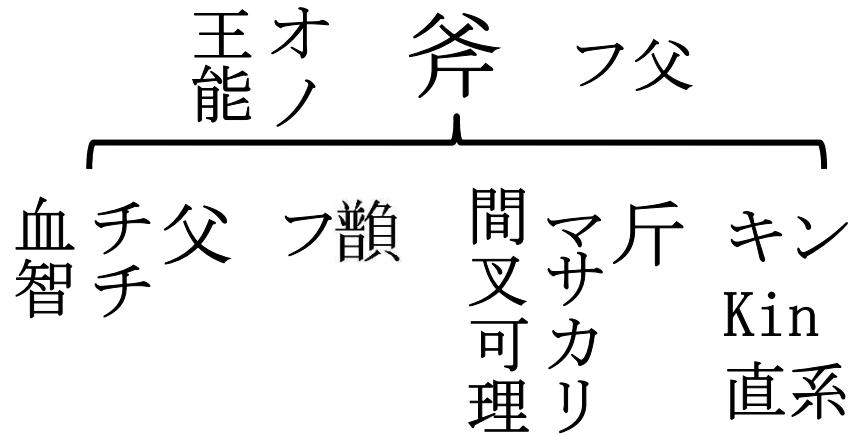


・点転天
タ

汰



Axis Ax (斧) と iS



i
アイ
天意
9 コ
光

S
エス
愛数
19 トク
透空
解

父の性能は磁性である。
 時空軸の成立は先に磁性が確立され
 次に母の性能である電性が可能となる。
 両者の性能が一体となって働くことで
 軸（又＝交差）が成立可能となる。

is:
 存在しているという
 意味の b e の現在形。
 まさに今茲である。

和数字「十」の位置

1～9までの数の展開を見てきたが、日本語の数字表記には一文字の「十」という地位がある。現在世界中で数を表すのに用いられているのはアラビア数字であり、また日常には十進法が用いられている。アラビア数字の十進法においては一桁の数は9まででその上は二桁になる。日本語では二桁の数でありながら一文字で「十」と表記し、他の一桁の数と同じく単音で「ト」と発音されていることは意義深い。ちなみに11以降は単音ではない。

二進法と十進法の10

- 0から9までの10種類の数を使う十進法に対して、二進法は0と1の2個の数字だけを使って書き表す。十進法の1、2、3、4、5、6、7、8、9、10はそれぞれ1、10、11、100、101、110、111、1000、1001、1010となる。
- 十進法では、数字は、0から9まで。9までくると、次は、一桁上がって、10になる。
- これと同じで、2進法は、0から1まで。1までくると、次は、1桁上がって、10になるので十進法の10は1010となる。

1010 トト

天鏡の最後の行である十行目は「透」の行と表示されている。透明の透は英語で。

TRANSPARENT トランスパレント
超越した 親 透 裸 云 数 把 零 云 答

ト ト → 透答 → 父

父の裏では母が一体となって働いている。

すなわち絶対透明の天の實親である。

では十に対しての九の関係性は何か。

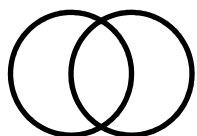
既出の字分けを見
てみよう。

ク + ・点転天

夕

田

汰



シ 太
詞 フトイ
言司 韻透意

・点(軸・時空が回転して展開している天)がク(9)に加わることで夕(田)が成立する。田から森羅万象が生まれ出てくるのだが、回転して展開している活動は1~9までの数の働きに由る。そしてそれらすべてを司っている真空透明(TRANSPARENT)の天の實親が十であると言えるのではないだろうか。